

平成 28 年度 東筑紫短期大学 教員情報

【専攻科(介護福祉専攻)】

和田悦子 WADA Etsuko 准教授

所属 東筑紫短期大学 専攻科 (介護福祉専攻)

担当科目 介護の基本 I・II、介護実習指導 I・II、
生活支援技術 I、家事の介護、介護総合演習 I・II、介護実習 I・II

専門分野 介護

最終学歴 東筑紫短期大学 保育科

学位 短期大学士

職歴 上津役幼稚園 教諭 (昭和 43 年 4 月～昭和 46 年 3 月)
北九州市立萩原保育所 保育士 (昭和 50 年 4 月～平成 2 年 3 月)
社会福祉法人至福会 介護職員 (平成 2 年 5 月～平成 17 年 10 月)
東筑紫短期大学 専攻科 (介護福祉専攻) 准教授 (平成 18 年 4 月～現在に至る)
東筑紫短期大学 専攻科長 (平成 23 年 4 月～現在に至る)

主な社会活動 ・北九州市介護認定審査委員 (平成 12 年 4 月～平成 18 年 3 月)
・北九州市年長者研修大学校周望学舎シニアカレッジ 講師
「明るい老後をおくるためにー老年期のファッション」
いかにして、老後を明るく生き生き過ごしていくのか、頭から足先のお洒落をと
とおし、集団参加の機会を多くつくり、自分の存在を確立する。
(平成 18 年 9 月)

・北九州市年長者研修大学校周望学舎シニアカレッジ 講師
「安心して食事や飲み物を摂取するには」
「食」は、人生における喜びの一つである。年齢を重ねるにつれ現れてくる様々
な障害によって満足に食事ができない人へ、安全でおいしく、かつ栄養バラン
スのとれた食事を提供すること、また、食べる楽しみが生きる力に繋がるよう
に、私たちは日々考えている。そこで、今回は、手軽に作れるソフト食を紹介
し、試食していただく。
(平成 19 年 11 月)

・北九州市年長者研修大学校周望学舎シニアカレッジ 講師
「老いを楽しく過ごすことを一緒に考えてみませんか」
年齢を重ねるにつれ、転倒すれば骨折し、やがては寝たきりにつながっていき
ます。足元に焦点を当て、転倒しない足元づくり、転倒しても骨折しない環境
づくりを考えていきます。
(平成 20 年 12 月)

- ・北九州市年長者大学校周望学舎シニアカレッジ 講師

「転ばぬ 先の杖」

人は誰でも老いていくことは知っているが、されど、「老いるとはどういうことか」について向き合っているのだろうか。死ぬことより老いる過程が怖いと感じている方も少なくはない。そこで、老いに向き合って生きていくためには、ぼけることなく、最期の人生を迎えることができるように「老いる過程」をどうすれば送れるかを理解し、努力することである。ぼけないための予防や運動を実演し、一緒に参加していただく。

(平成21年11月)

奥川満子 OKUGAWA Mitsuko 准教授

所属 東筑紫短期大学 専攻科（介護福祉専攻）

担当科目 [専攻科（介護福祉専攻）]

こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ、認知症の理解、発達と老化の理解、
医療的ケア

[保育学科]

小児保健演習

専門分野 介護と看護の違い

最終学歴 九州産業大学大学院 経営学研究科経営専攻（修士課程）

学位 修士（経営学）

職歴 東横病院 (昭和48年4月～昭和51年12月)

三菱重工大倉山病院 (昭和52年2月～昭和55年3月)

産業医科大学病院 (昭和55年4月～平成21年3月)

東筑紫短期大学 専攻科 准教授 (平成21年4月～現在に至る)

その他職歴 福岡県立大学人間形成学科 非常勤講師

「小児保健実習」担当 (平成9年～平成10年)

産業医科大学保健学部看護学科 非常勤講師

「看護管理」担当 (平成18年～平成21年)

和歌山県立医科大学保健看護学部 非常勤講師

「リハビリテーション看護」担当 (平成22年～平成25年)

主な研究活動 【論文】

○「保育器収容中の未熟児に対する保育器外沐浴の検討」（論文）共著

保育器収容中の未熟児に対して保育器外沐浴を行い、沐浴が児に及ぼす影響と保育器外沐浴開始時の時期の検討をおこない、観察事項を設定することにより可能であることを明らかにした。

(小児看護8巻25号 628～632頁 昭和60年 [旧姓 新垣])

○「血友病患者および家族家庭輸注の一方法を援助して」（論文）共著

昭和58年2月に血友病患者の自己注射が健康保険で正式に認められたため、私たちは自己注射を普及させるために、血友病サマーキャンプの機会に知識および実技指導を実施し、かなりの成果をあげることができた。

(小児看護9巻2号 248～252頁 昭和61年 [旧姓 新垣])

○「未熟児における直接母乳保育法の検討」（論文）共著

健常新生児の吸綴運動の状態のレベルを知り、未熟児の直接母乳保育へ移行時期を明らかにするために、圧測定装置で吸綴力を測定した。健常新生児の哺乳曲線の吸綴リズムは規則的で、吸綴力の高さ、振幅も鮮明であった。未熟児の直接保育移行時期の指標として、経日的測定が有効と示唆された。

(第16回日本看護学会（小児看護）昭和60年10月[旧姓 新垣])

○「面会日記を作成して」（論文）共著

未熟児は NICU 収容により母子分離が余儀なくされ、特に極小未熟児は長期間の入院を必要とする。この長期入院によって母子関係に及ぼす弊害も決して少なくない。そこで、母子関係を促す一手段として、面会日記を取り入れ、効果を確認するためにアンケート調査を実施し、その結果を報告した。

（小児看護 9 巻 8 号 1047～1051 頁 昭和 61 年 [旧姓 新垣]）

○「看護業務の体力的検討

ーリハビリテーション科と泌尿器科との比較」（原著論文）共著

看護業務は、業務の異なる混合病棟において担当する診療科、患者により看護婦の負担度に相違が生じる可能性があると考え、身体的労働負担の相違を就労中の心拍数変化により調査した。勤務中の平均心拍数から平均酸素摂取量を推定したところ、泌尿器科担当看護婦に比べリハ科担当看護婦は、平均摂取量が有意に高い値を示した。

（第 23 回日本看護学会（集録看護管理 178～181 頁）平成 4 年 9 月）

○「血友病患者の包括医療をめざして」（論文）共著

産業医科大学病院福岡県および近隣地域の血友病患者に包括医療を行う目的で北九州血友病センターを開設した。そのセンターの役割とその活動内容を紹介した。

（看護技術 31 巻 10 号 72～77 頁 1993 年 [旧姓 新垣]）

○「3 交替制勤務における看護婦の労働負担量および疲労に関する研究」

（原著論文）共著

看護婦 11 名の 3 交替勤務による看護婦の労働負担量と疲労の関係を調べた。心拍数と酸素摂取量の関係を求め、次に各勤務替の心拍数の変化を測定、合わせて業務内容を時間ごとに記録し、勤務終了後に疲労の自覚的症候調査を行った。平均酸素摂取量では準夜勤 > 日勤 > 深夜勤であり、自覚疲労の訴え率は日勤・準夜勤より深夜勤が多く、深夜勤の疲労度が強い傾向が示唆された。

（第 24 回日本看護学会（集録看護管理 102～104 頁）平成 5 年 9 月）

○「機能的自立度評価法（FIM）による ADL 評価—Barthel Index との比較—」

（原著論文）共著

ADL 評価法として Barthel Index（以下 BI）を活用してきたが細かな ADL の評価が困難であった。近年国際的に利用されつつある ADL 評価法として、機能的自立法（FIM）があり、当科でも平成 5 年より試用を開始した。BI と比較して FIM の妥当性を検証した。FIM は妥当な評価表である可能性が示唆された。

（第 25 回日本看護学会（集録成人看護Ⅱ 111～113 頁）平成 6 年 9 月）

- 「看護アセスメントの実際 悪性腫瘍患者のフィジカルアセスメント」
(解説/特集) 共著
癌患者の主要症状である全身倦怠感、疼痛、悪心・嘔吐の3つにポイントをおき、身体苦痛を軽減するために必要なフィジカルアセスメント看護ケアを紹介した。
(臨床看護 23 巻 7 号 1092～1097 頁 平成 9 年)

- 「前立腺肥大症の手術療法を受ける患者と看護の役割」(解説) 共著
高齢者で前立腺肥大症の手術を受ける患者の術前・術後のアセスメントと患者ケアのポイントを紹介した。
(月刊ナーシング 16 巻 8 号 32～36 頁 平成 8 年)

- 「看護職の自己表現トレーニングと自尊感情、首尾一貫感覚」(論文) 共著
病院で働く医療従事者、特に、看護師のストレスは産業保健上重要な問題と言われている。その改善策を見出すために、自尊感情に焦点を当て、首尾一貫感覚の関係について調査をした。その結果、自己表現トレーニングが自尊感情や首尾一貫感覚に好ましい影響を与え、看護師のストレス対策を考える際に参考になることが示唆された。
(第 7 回日本看護研究学会 九州地方会 平成 15 年 3 月)

- 「介護と看護の相違点を模索するー介護福祉士の展望ー」(総説)
介護と看護の歴史的な背景から察しても、「介護と看護はどう違うの」一言で論じると原点は同義語であり、広義に解釈しても共通の理念や行為が多いため、両者を議論することは難しい。そこで、両者の役割の違いを明らかにし、今後の課題について論じた。
(東筑紫短期大学 研究紀要 第 42 号 平成 23 年 12 月)

主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・周望学舎シニアカレッジ 講師 今、日本では 85 歳以上 4 人に 1 人が認知症と言われている。これからの高齢者は老いといかに向き合うかが課題ではなかろうか。その老いと向き合って生きていくためには、多くの人々が「認知症」という病気を理解することが大切なため、「認知症の基礎知識」について講義をした。 (平成 22 年 11 月) ・周望学舎シニアカレッジ 講師 (平成 25 年度)
所 属 学 会	<ul style="list-style-type: none"> 日本看護協会 (昭和 48 年 4 月～現在に至る) 日本介護福祉教育学会 (平成 22 年 7 月～現在に至る) 日本認知症ケア学会 (平成 22 年 4 月～現在に至る) 福岡県介護福祉会 (平成 23 年 4 月～現在に至る)

早瀬 亮子 HAYASE Ryoko 講師

所属 東筑紫短期大学 専攻科（介護福祉専攻）
担当科目 生活支援技術Ⅱ・Ⅲ、介護過程Ⅰ・Ⅱ、障害の理解、
介護総合演習Ⅰ・Ⅱ、介護実習Ⅰ・Ⅱ
専門分野 介護福祉
最終学歴 箕面学園福祉保育専門学校
学位 専門士
職歴 田能老人福祉会 介護職員（平成3年4月～平成5年3月）
吹田市役所 高齢福祉課 在宅介護職（平成5年4月～平成11年7月）
箕面学園福祉保育専門学校 専任教員（平成15年4月～平成17年3月）
神戸介護福祉専門学校 専任教員（平成17年4月～平成22年3月）
大阪保健福祉専門学校 専任教員（平成22年4月～平成22年7月）
京都聖母女学院短期大学 嘱託専任教員（平成23年4月～平成28年3月）
神戸女子大学 非常勤講師（平成23年4月～平成24年3月）
東筑紫短期大学 専攻科（介護福祉専攻）講師（平成28年4月～現在に至る）

教育上の業績 ○介護総合演習
「介護福祉実習におけるてびき」作成
介護福祉実習に必要な実習の概要を記載（平成20年4月）

主な研究活動 【著書】
○「臨床に必要な介護概論」弘文堂 共著（平成19年3月）
第2章 p42～p52
介護の成立と史的展開

主な社会活動 ・介護福祉士国家試験実地試験委員（平成17年～平成28年）
・YMCA ヘルパー2級講座・シルバー人材センターヘルパー講座（平成17年～平成19年）
・吹田市役所 介護技術研修会 講師（平成17年）
・神戸介護福祉専門学校 介護技術講習会（主任指導者講習会 講師）（平成19年）
・神戸介護福祉専門学校 介護技術講習会（指導者講習会 講師）（平成19年）
・神戸介護福祉専門学校 介護技術講習会（平成19年～平成21年）
・介護福祉士国家試験直前対策講座（介護技術・介護概論）（平成19年～平成21年）
・介護福祉士実習指導者講習会 講師（スーパービジョンの意義と活用及び学生理解）（実習指導者における課題の対応・実習指導の方法と展開）（平成21年～平成22年）
・京都国際交流会館 地域講習 講師（平成27年）
・日本介護福祉士養成施設協会 近畿ブロック会教員研修会委員（平成28年）
所属学会 日本介護福祉教育学会（平成26年～現在に至る）
